

令和8年度
第1学年



授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭(技術分野・家庭分野)、英語

道徳、サイエンス

教科名		年間授業時数	学年
国語		175	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		平井 敬貴・永幡 紗彩子	

教科書（発行所）	新しい国語（東京書籍）・中学書写1・2・3年（光村図書）		
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト 単元別漢字1 ウイニングPLUS中学校問題集国語1 意味から学ぶ頻出漢字3000 国語便覧	(文理) (秀学社) (好学出版) (第一学習社) (浜島書店)	

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	<p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 <p>○思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。 <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容と文法ノートの内容を中心に出题する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	「風の五線譜」「扉の詩」「朗読の世界」「私たちの未来」
		第2回考査	「オオカミを見る目」「詩の心 発見の喜び」「さんちき」「インタビュー」「比較して分かったことを伝えよう」
		第3回考査	「月夜の浜辺」「私のタンポポ研究」「移り行く浦島太郎物語」「伊曾保物語」「根拠を明確にして書こう」「音声の働きや仕組み」
		第4回考査	「わたしの中にも」「少年の日の思い出」「お話し読書のすすめ」「竹取物語」「以ている言葉スピーチ」「漢字の部首」
		年度末考査	「矛盾」「トロッコ」「心に残る出来事を表現しよう」「グループディスカッション」「漢字の成り立ち」
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業の中での考察、ノート、小テスト、提出した課題の内容などを適切に活用して総合的に行う。</p>		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	<p>毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身に付けていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましよう。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配付されるプリントの問題を考えてみましよう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけでなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。</p> <p>復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましよう。</p> <p>なお、課題として配付している問題集は、解答の根拠となる箇所に線を引くなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましよう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「風の五線譜」「扉の詩」	1	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。
	5	「朗読の世界」	3	・相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫する。
		「私たちの未来」	4	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを、描写をもとに読み取る。 ・段落の役割や段落どうしの関係を捉え、要旨をつかむ。
	6	「オオカミを見る目」 《第1回考査》	4	
		◎「楷書を書こう」(硬筆)	4	・楷書の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
	7	「詩の心 発見の喜び」	3	・文章の内容を踏まえて、詩を解釈する。
		「さんちき」 《第2回考査》	5	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを、描写をもとに読み取る。
	8	「平和のバトン」	4	・文章を読んだ感想や考えを話し合い、自分の考えを確かなものにする。
		「インタビュー」	3	・記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめる。
9	「比較して分かったことを伝えよう」 「方言と共通語」	4	・内容の中心が明確になるように、分かりやすい文章の構成でレポートを書く	
	◎「楷書と仮名を書こう」(毛筆)	4	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。	
後期	10	「月夜の浜辺」	2	・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・事実と考えとの関係を捉え、要旨をつかむ。
		「私のタンポポ研究」	6	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知る。
	11	「移り行く浦島太郎の物語」	2	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムに慣れる。
		「伊曾保物語」	6	・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。
	12	「根拠を明確にして書こう」	7	
		◎「行書を書こう」(毛筆)	4	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。
	1	○百人一首	4	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。
		「矛盾」	7	・訓読の仕方に注意して音読し、漢文調のリズムを味わう。
	2	「トロッコ」	5	・小説を読み、情景描写などの表現の効果について、根拠を明確にして考える。
		「心に残る出来事を表現しよう」	6	・出来事と思いが伝わるように、表現を工夫して書く。
3	「グループディスカッション」	4	・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	
	「漢字の成り立ち」 《年度末考査》	1	・漢字の成り立ちについて理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
3	「そこに僕はいた」	6	・場面の展開や人物の描写に注意して、作品を読み味わう。	
	「常識は変化する」	5	・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。	
3	「対話の学び」	6	・言語事項や文法について理解を深める。	
	「情報と倫理の学び」 「文学の学び」 「文法解説」			
通年	演習	39	「文法ノート」の解説を読み、言葉の単位・文の成分等について学習する。	
		総時間数	175	

教科名 社会科		年間授業時数 137	学年 1
授業形態 前期：一斉授業 後期：一斉授業		指導者名 成石 祐一	

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト社会 全（文理） 地理ワーク（新学社） 歴史ワーク（新学社） 他

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の姿、日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また、地図、資料の活用ができる技能を磨く。 地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ、身近な地域や都道府県、日本の諸地域などを多面的・多角的に捉える力を養う。 歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 自ら課題を設定し、自ら調べ、課題を解決していく力を身に付ける。 		
学習のねらい	<p>(地理的分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図を活用して、世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 日本地図を活用して、47都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。 都道府県の地域調査を始めるにあたって、県を調べる際の地域調査の一般的な方法や手順を理解する。 市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら、国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を身に付ける。 わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活文化」「資源・産業」の五つの面から考察し、わが国がかかえる社会的課題を理解する。 世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 <p>(歴史的分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中世から近世までの大きな時代の流れを捉えさせ、それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 特に近世から近代の日本の歴史を、世界の歴史的变化と並行し、連動して捉えることができる柔軟性を養う。 歴史的事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。 		
定期考査	出題方針	授業で学習した内容、使用している副教材の内容から出題する。資料を用いて考え、自分の言葉で表現する力を多く問う。	
	(予定)	第1回考査 第2回考査 第3回考査 第4回考査 年度末考査	<ul style="list-style-type: none"> 世界の姿 日本の姿 世界の入々の生活と環境 古代の日本 世界のさまざまな地域 中世の日本 世界のさまざまな地域 中世の日本 近世の日本
評価の観点・ 評価の方法	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 上記3項目について、授業への取組（ノート・発表等）、自主学習、レポート、単元テスト、定期考査の結果で総合的に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力をつけていきましょう。		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	(i) 世界と日本の地域構成 ア 世界の姿	7	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国々 地球の姿 (三大洋、六大陸・州) 緯度と経度 地球儀と世界地図の違い
	5	イ 日本の姿 《第1回考査》	7	<ul style="list-style-type: none"> 世界中での日本の位置 時差でとらえる日本の位置 日本の領域とその特色 都道府県と県庁所在地
	6	1 歴史へのとびら	8	<ul style="list-style-type: none"> 歴史学習の基礎知識 時期や年代の表し方 時代の移り変わりのとらえかた
	6	2 古代までの日本	25	<ul style="list-style-type: none"> 人類の出現と進化 文明のはじまり 縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らし 律令国家への歩み 奈良時代の人々の暮らし 平安京と律令国家の変化
	7	(ii) 世界のさまざまな地域① ウ 人々の生活と環境 世界の諸地域 《第2回考査》	16	※アジア、ヨーロッパ、アフリカ州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境 産業と文化 地域的課題
	8 9	3 中世の日本①	14	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立 武士と民衆の生活 鎌倉時代の文化と宗教
	10	エ 世界のさまざまな地域② オ 世界のさまざまな地域の調査 《第3回考査》	19	※北アメリカ、南アメリカ、オセアニア州に関して、生活の様子を把握できる地理的事象を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境 産業と文化 地域的課題
	11 12	4 中世の日本② 《第4回考査》	20	<ul style="list-style-type: none"> モンゴル帝国とユーラシア世界 南北朝の動乱と室町幕府 東アジアとの交流 産業の発達と民衆の生活 応仁の乱と戦国大名 室町文化とその広がり
	12	5 近世の日本①	16	<ul style="list-style-type: none"> 中世ヨーロッパとイスラム世界 ヨーロッパ世界の拡大 織田信長・豊臣秀吉の統一事業
後 期	1			
	2			
	3	《年度末考査》 時代の大観学習 (歴史)	5	<ul style="list-style-type: none"> 適切な主題を設定して、調査発表をする学習
総時間数			137	

教科名	年間授業時数	学年
数 学	175	1
授業形態	指導者名	
一斉授業	岸野光起、金谷久美子	

教科書（発行所）	新しい数学1	（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	体系数学1 代数編	（数研出版）
	体系数学1 幾何編	（数研出版）
	体系問題集1 代数編 発展 完成ノート	（数研出版）
	体系問題集1 幾何編 発展 完成ノート	（数研出版）

目 標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を通して、正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。 方程式や不等式について理解し、一元一次方程式、連立二元一次方程式や不等式を用いて考察することができるようにする。 <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。 <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例、一次関数の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	1回考査	正の数と負の数
		2回考査	正の数と負の数、式の計算、方程式
		3回考査	不等式、関数
		4回考査	関数、平面図形（一部）
年度末考査	平面図形、空間図形		
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、授業への取組、小テスト、提出された課題の内容等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にすることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	正の数と負の数 加法と減法 乗法と除法	3 5 5	<ul style="list-style-type: none"> 正の数、負の数の性質や関係を調べることができるようにする。 正の数、負の数の四則計算の意味を正しく理解し、計算ができるようにする。
		四則の混じった計算 《1回考査》 章末問題	4 4	
	5	文字式	3	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて数量を簡潔に表現できるようにする。
		多項式の計算 単項式の乗法と除法 文字式の利用 章末問題	4 4 5 4	
	6	方程式とその解 1次方程式の解き方 連立方程式	2 4 5	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を見だし、それにもとづいて方程式を変形して解くことができるようにする。 方程式を能率よく解くことができるようにする。 方程式を利用して、問題を解決することができるようにする。
		方程式の利用 章末問題 《2回考査》	4 4	
	7	不等式の性質 不等式の解き方	3 3	<ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質を見だし、それにもとづいて不等式を変形して解くことができるようにする。 不等式を利用して、問題を解決することができるようにする。
		不等式の利用 連立不等式 章末問題	4 3 3	
8	変化と関数 比例・反比例とグラフ	2 7	<ul style="list-style-type: none"> 表、式、グラフを用いて、比例、反比例、1次関数の特徴を調べることができるようにする。 	
	比例・反比例の利用 1次関数とグラフ 1次関数と方程式 《3回考査》	4 4 4		
後期	10	1次関数の利用 章末問題	10 7	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の考察に、1次関数を活用することができるようにする。
		平面図形の基礎 対称な図形 図形の移動 《4回考査》	4 4 3	
	11	作図 面積と長さ 章末問題	6 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 角の二等分線などの作図の方法を理解し、作図することができるようにする。 さまざまな図形の面積や長さを求めることができるようにする。
		いろいろな立体 空間における平面と直線 立体のいろいろな見方 立体の表面積と体積 《年度末考査》	3 5 5 7	
	12	章末問題 1年生のまとめ	7 8	<ul style="list-style-type: none"> 空間図形を直線や平面の運動によって構成することができるようにする。 空間図形を平面上に見取図や展開図を用いて表現することができるようにする。 基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることができるようにする。
		総時間数	175	

教科名		年間授業時数	学年
理科		136	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		奥野 晃司	

教科書(発行所)	未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	中学実力練成テキスト 理科1年(文理)

目 標	<p>自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>[生命] 身近な生物についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を学習するとともに、生物の体のつくりやそのはたらきを理解し、生物の世界についての総合的な認識を深める。</p> <p>[地球] 大地の成り立ちと、変化に関する探究的な学習を通して、地表にみられる事物・現象と関連付けながら、絶えず活動し続ける地球の姿についての理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[物質] 身のまわりの物質に関する探究的な活動を通して、物質のもつ基本的な性質の理解を深めるとともに、観察、実験を行うための基本的な技能の習得、科学的な探究に必要な思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を養う。</p> <p>[エネルギー] 身近な物理現象に興味をもち、探究的な活動を通して、光・音・力に関する基礎的・基本的な性質への理解を深めるとともに、規則性や関係性を調べる観察や実験における基礎的操作や技能を身につける。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲(予定)	第1回考査	「生命」自然の中にあふれる生命(問題集、実験・観察)
		第2回考査	「生命」自然の中にあふれる生命 「物質」身のまわりの物質(問題集、実験・観察)
		第3回考査	「物質」身のまわりの物質(問題集、実験・観察)
		第4回考査	「エネルギー」光・音・力による現象(問題集、実験・観察)
年度末考査	「地球」活きている地球(問題集、実験・観察)		
評価の観点・評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への知識理解と科学的に探究するための技能、科学的に探究するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。</p> <p>○評価の方法は、振り返り等の記述、学習のまとめりごとの小テストや定期考査、授業への取組のようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、必要に応じて自己評価も行う。</p>		
先生からアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方、ノートを取り方など)	<p>理科の学習は、自然の事物・現象のなかに隠れている「理」について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを描いて事実合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	自然の中にあふれる生命 生物のなかま分け	6	○校庭や学校周辺の生物の観察を通し、いろいろな生物がさまざまな場所に生活していることを見いだして理解するとともに、基本的な観察技能、観察記録のしかたを身につける。 ○生物の共通点と相違点に着目しながら、分類についての基礎を身につける。	
	5	「生命」いろいろな生物とその共通点 単元導入 学ぶ前にトライ! 1章 植物の特徴と分類	(24) 1 10	○身近な植物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、植物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で植物を分類できることを理解する。 ○植物に対する興味・関心を持ち、植物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。	
		《1回考査》		○身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、動物の体の基本的なつくりを理解するとともに、その共通点や相違点で動物を分類できることを理解する。	
		2章 動物の特徴と分類 力だめし、学んだ後にリトライ!	11 2	○動物に対する興味・関心を持ち、動物を観察するときどのような点に着目すればよいかを考える力を身につける。	
	6	「物質」身のまわりの物質 単元導入 学ぶ前にトライ! 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質	(37) 1 9 8	○身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べ、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを理解する。 ○実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身につける。 ○気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解する。	
	7	《2回考査》		○気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。 ○物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を粒子のモデルで理解する。	
	8	3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 力だめし 学んだ後にリトライ!	8 9 2	○水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて理解する。 ○物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解する。 ○物質の融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだす。	
	9				
	後期	10	「エネルギー」光・音・力による現象 単元導入 学ぶ前にトライ! 1章 光による現象 《3回考査》	(33) 1 11	○光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。 ○凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を見いだす。
		11	2章 音による現象 3章 力による現象 力だめし 学んだ後にリトライ!	8 11 2	○音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝えること、音は波として約340m/sの速さで伝わること、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを見いだす。 ○物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくと物体を変形させる、物体の運動のようすが変わる、物体を支えることを見いだす。 ○力は大きさや向きと作用点によって表されることを理解する。 ○2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を理解する。
		12	《4回考査》		
		1	「地球」活きている地球 単元導入 学ぶ前にトライ! 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地	(34) 1 5 7 10 9	○地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。 ○観察器具の基本的な扱い方などを身につける。 ○地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。 ○地震の原因などをプレートの動きと関連付けて理解する。 ○さまざまな火山の活動を調べさせ、それらの様子はマグマの性質が深く関係していることを考察する。
2	《年度末考査》		○マグマからできる火成岩の特徴を、成因と関連付けて理解する。		
3	力だめし 学んだ後にリトライ!	2	○地層の重なり方や広がり方の規則性を捉え、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通して、地層のでき方を理解する。 ○プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的にとらえ、大地からの恵みや災害について理解する。		
総時間数			136		

教科名	年間授業時数	学年
音楽	58.5	1
授業形態	指導者名	
前期:一斉授業 後期:一斉授業	西岡 忠・川上 由紀	

教科書(発行所)	中学生の音楽1 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材(発行所)	音楽のハーモニー1 (正進社)

目標	音楽活動の喜びや感動を体験させるとともに、進んで音楽活動をしようとする意欲を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 豊かな響きを工夫し、言葉の抑揚やリズムを生かして美しい発音で歌う。 他の声部や全体の響きに気を付けて合唱する。</p> <p>2 器楽 楽器の基礎的な奏法を身に付け、美しい音色を工夫して演奏する。 伴奏の形やとけ合いを意識して合奏表現ができる。</p> <p>3 創作 リズムフレーズや短い旋律を創る。</p> <p>4 鑑賞 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働き、声や楽器の音色と組み合わせによる響きと効果、わが国及び諸外国の民族音楽の特徴などを感じ取って聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽のハーモニーやプリント等から出題します。	
	範囲(予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	校歌、既習曲、春、魔王、越天楽、リコーダー奏法・運指 等
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
年度末考査	既習曲、六段、日本の民謡、アジアの諸民族の音楽、リコーダー運指等		
評価の観点・評価の方法	<p>・評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。</p> <p>・具体的な評価は、普段の授業への取組(授業態度、授業プリントや音楽ノートの提出物等の記述内容、創作活動での作品やその過程での取り組み方 等)、定期考査、実技テスト(リコーダー、歌唱)から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス	<p>・音楽の世界は、種類も多く、範囲も広く、私たちが日常親しんでいる音楽も多岐にわたり様々です。いろいろな種類・様式の音楽に興味・関心をもち、知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。</p> <p>・歌唱・器楽・創作の活動を、ただ単に楽譜上の記号を音に変換する行為にしまわせず、歌ったり演奏したりすることが、自分の生活の中での驚き、発見、喜び等を思い起こすものになるよう、積極的に活動しましょう。</p> <p>・基礎・基本を身に付け、個々の目標や課題を見つけて、楽しく音楽にかかわっていきましょう。</p> <p>・毎時間忘れ物をせず、提出物(音楽ノート、プリント等)を必ず出すようにしましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	思いを込めて歌おう。 ・「We'll Find The Way」「校歌」「My Voice」	3	希望を胸に、明るくおおらかに歌う。 互いの歌声の響き合いを楽しむ。
	5	曲の構成を感じ取って歌唱表現を工夫しよう ・「主は冷たい土の中に」	3	曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取る。 パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取る
		日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう。 ・雅楽「平調 越天楽」	3	日本の伝統音楽に使われる楽器の音色の美しさを味わう。
	6	音楽の特徴に注目して聴こう。 ・和声と創意の試み「四季」より「春」	3	標題を手掛かりに、音楽の内容や音楽による表現の素晴らしさを感じ取る。 曲の構成を理解し、曲想の変化を感じ取る。
		曲想やパートの役割を感じて歌唱表現をしよう。	3	パートの役割や旋律の重なり方の特徴を感じ取り、歌詞の内容を味わいながら歌う。
	7	・「夢の世界を」 リズム創作を楽しもう。 ・「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」 曲想と音楽の構造との関わりを意識して聴こう。	2	音符・休符の長さを理解し、4小節のリズムを創作する。
		・「魔王」 <第2回考査>	3	旋律と伴奏が一体となった曲想を感じ取る。 劇的な音楽の内容や、曲想の変化・表現の効果などを感じ取る。
	9	日本の歌の良さや美しさを感じ取って表現しよう。 ・「浜辺の歌」「赤とんぼ」	6	歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取る。 速度や強弱の変化を生かした表現をする。
	5 ～ 3	リコーダーに親しもう。 *この題材は練習曲を継続して行う。	10.5	アルトリコーダーの基本的な奏法を身に付け、正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	後期	10	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取ってその魅力を味わおう。 ・「ソーラン節」・日本の民謡 ・アジアの諸民族の音楽	4
11		箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう。	6	箏特有の音色や独特な奏法を味わい、日本の楽器の音楽に親しむ。
12		・箏曲「六段」 曲の構成や曲想の変化を生かして歌唱表現を工夫しよう。	6	全体の響きや各声部を聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
1		・「君をのせて」 仲間とともに、表情豊かに合唱しよう。	6	各声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱をする。
2		～卒業式に向けて～		
3		<年度末考査>		
		総時間数	58.5	

教科名		年間授業時数	学年
美術		58.5	1
授業形態		指導者名	
一斉授業		森 邦生	

教科書（発行所）	美術1 美術との出会いと広がり（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動とつくる活動を経験することで創作する楽しさを味わう。自然や身近なものを観察する力、自分がそこに何を感じるかを重視し、それをどのように表現するか考えられる基礎的技能を学ぶ。また鑑賞を通して自然や美術作品についての理解や見方を広げ、自身の創作活動に生かせるようにする。		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 自然や身近なものを観察し、形や色彩や光がつくり出す美しさをとらえ表現することを学ぶ。また対象を深く見つめることで、ものの見え方感じ方を味わい、自分らしい感じ方・個性を表現する。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 形や色彩、材料、光がもたらす効果や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美しく構成することを学ぶ。その中で自分が表現したいイメージを発想し構想を練り、作り方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付ける。また意図に応じて工夫して表現することを学ぶ。</p> <p>3 鑑賞 美術作品や自然、生活の中の造形などの鑑賞に親しみ、よさや美しさを味わい、造形的な視点を養う。またクラスメイトの作品に対して、心情や表現の意図、工夫について考え、自身の表現との違いに興味を持ち・認め・楽しむことを学ぶ。</p>		
定期考査	出題方針	授業で制作した内容や配付プリント、教科書・美術資料から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	鉛筆の技法、色の属性、絵の具の性質・技法、鑑賞問題
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
年度末考査		色の属性、レタリング、絵文字、実技問題	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に、また粘り強く取り組む態度の3項目とする。</p> <p>○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の出来映え、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。</p>		
先生からアドバイス	<p>表現することに「上手」「下手」はありません。技術的に優れていればより豊かな表現ができますが、それだけで「作品の魅力」につながらないところが美術の素晴らしく、また面白いところです。</p> <p>「うまく描くこと」よりも「自分が感じたことを表現しようとする姿勢」が大事です。純粋な気持ちで目の前の真っさらな紙に臨みましょう。</p> <p>授業ではのびのびと制作できるように、また結果よりも制作のプロセスを楽しむことを主眼にしています。何よりも表現することの楽しさを味わって欲しいです。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「オリエンテーション」	1	・一年間の学習のイメージをつかんでもらう。
		「鉛筆デッサン」(絵画) ・鉛筆の削り方と描画技法を学ぶ。	2	・日常使い慣れた鉛筆から絵画の様々な技法を学ぶ。 ・対象の形・陰影をつかみ、立体感の仕組みを学ぶ。
		「色を感じて」(鑑賞・絵画) ・色の属性や働き、三原色について学ぶ。	2	・色の性質、感情にもたらす効果を理解する。
	5	「絵の具の性質と種類」	2	・絵の具の種類と性質、アクリル絵の具を理解する。 ・混色と水分量のコントロールの仕方やを実践する。
		「絵の具の技法」(絵画) ・絵の具の様々な技法 ・技法を応用して題材を発想した絵画の制作	8	・絵の具の様々な技法を学ぶ。 ・絵の具の特徴・技法を活かした絵画作品を制作する。
	6	《第2回考査》		
	7	「レタリング」(デザイン)	2	・漢字の多様な書体を鑑賞し、記録媒体と目的によってデザインされていることを感じ取る
	8	「文字のデザイン」(デザイン) ・絵文字の制作	8	・文字の形や意味からイメージを広げ絵文字を制作する。
	9			
後期	10	「粘土で立体造形」(彫塑) ・手を題材に立体作品を制作する。	13	・自分の手をスケッチし、形や質感・量感などの特徴をとらえ、材料・用具を工夫して表現する。
	11			
	12	「伝統工芸を知る」(鑑賞) ・箱根寄木細工とその制作過程を鑑賞する。	1	・伝統工芸のよさや美しさを感じるとともに、鑑賞され使われるもの、受け継がれているものとしての価値を学ぶ。
	1	「木工作品を装飾しよう」(デザイン・工芸) ・技術科で制作した木工作品に合わせ、ウッドシートを使い、自分らしい色や形を考えて構成し制作する。	15	・木工作品を飾る形をイメージし、構成を工夫する。 ・ウッドシートの特性を理解して、加工方法や用具などを適切に考えて制作する。 ・切り抜き作業、木工作品への接着、ニス塗りまで粘り強く、また見通しを立てて制作することを学ぶ。
	2	《年度末考査》		
	「chromebookを使ったデザインワーク」(デザイン)	4	・身近なものを観察し、形の面白さを発見し撮影する。 ・撮影した素材をデザイン制作に活用する。	
3			・1年の学習のまとめとなる絵画s作品を制作する。	
		総時間数	58.5	